

機構長挨拶

山口大学大学研究推進機構長 堀 憲次

平成28年4月

本年4月に学術研究担当副学長に就任し、それに伴い大学研究推進機構長として、山口大学における学術研究、産学連携を推進することとなりました。後者については、平成19年に地域共同研究開発センター長、平成20年から2年間の産学公連携・イノベーション推進機構副機構長として、山口大学のブランドである産学連携を推進してきた経験が生かせるものと思っています。

三池前機構長の6年間は、URAの組織化とIR（インスティテューショナル・リサーチ）力の強化、科学研究費補助金のブラッシュアップ実施と獲得の件数の増加、女性研究者支援室の設置、研究拠点創出にかかわる取り組み等、本学における学術研究の推進に力を注がれた期間でした。その結果として相対的に比重が下がっている産学連携活動への支援強化が、本年度以降の機構に課せられた喫緊の課題であると考えています。この課題に対応するために、次のような教育研究への支援により「産学連携」を山口大学のブランドとして取り戻す活動が求められています。

1. 産学連携活動の強化

これまで産学連携といえば、産業界のニーズを大学が持つシーズで解決するニーズ・シーズマッチングが大きな地位を占めてきました。本学においても、昨年度の「企業との共同研究や受託研究」の件数は200件を超えており、本学教員のもつ問題解決に資する研究力の高さを示しています。しかしながら、それらにより得られる一件当たりの研究資金は大きいとは言えないのが現状です。

一昨年から大学として行っている研究拠点を形成する施策は、学内研究者を組織化し、その研究力を統合して大きな力を発揮させることを目指しています。機構には、これら拠点の総合的な研究力を把握し、それを外部に発信し、新たな産学連携プロジェクトを創成することで外部資金を獲得できるような支援を行うことが求められています。産学連携コーディネーターの学外における活動は、この目的達成のための重要な要素であることは疑いありません。

協定を締結して10年余を経過した包括的連携の停滞（来年度の研究課題の数は、開始時のそれに比べて大幅に減少している）から抜け出すことも重要です。この停滞が、対応する企業に関する本学の研究力の不足によるものか、共同して研究を行う課題が見いだせていないのか、などの原因を明らかにする必要があります。本学と連携企業ともに、包括的連携が両者の未来にとって重要な要素とみなされるような連携に発展させることが重要です。

2. 女性研究者支援の強化

文部科学省の重要政策として、大学に「女性研究者支援」が求められています。本学においても文部科学省からの支援を得て、2年前に「女性研究者支援室」を立ち上げて活動を行ってきました。室長の努力が実を結び、女性研究者に限定した公募による積極的な教員採用、理系学部における女性教授の誕生、女性管理職の登用促進、シンポジウムの開催などの成果が上がっています。本年度はプロジェクトの最終年度であることから、申請時に掲げた数値目標を達成し、さらにそれを上回る成果を上げるために、機構をあげた積極的な行動が求められています。

3. 創成科学研究科におけるイノベーション教育

本年4月に、理工学研究科と農学研究科を統合した創成科学研究科が新設されました。その教育の目玉として、「知的財産」、「研究者倫理」、「研究者が持つべき基礎的なスキル」に関する科目が、すべての理系大学院生が受講可能な大学院共通科目として導入され、前者の二科目は必修とされました。これらの教育内容については、機構における産学連携活動と重なる部分が大きいため、教育活動へ関与することが要請されています。本年度以降、機構構成員は、イノベーション教育へのかかわりを重要なミッションの一つとして遂行することになります。

4. アントレプレナー教育

本年度の概算要求の一つであった「イノベーション人材育成のための新しい大学院教育モデルの構築」が認められました。そのイノベーション教育では、(1)大学院レベルの研究スキルの付与とプロジェクトベースの修士論文研究、(2)アントレプレナー教育が二つの柱で、後者については本機構のミッションとなっています。

この教育で行うプロジェクトに関連して、Silicon Valley Ventures Co., Ltdの森若CEOの案内で、2月末にカリフォルニア州シリコンバレーへ、アントレプレナーシップについて調査に行きました。新しい形のアントレプレナーシップ教育（起業への「アクセラレーション」と呼ばれる）や投資を行っているBlackBox社を主催するFadi Bishara氏との議論、お会いした若い企業家の精神構造、シリコンバレーにおける徹底的なオープンイノベーション手法等々、これまでの経験では想像すらできなかったシリコンバレーの雰囲気、肌で感じることができました。

本年度から開始するアントレプレナー教育には、このシリコンバレーの精神構造を、山口大学の学生に注入することを目的にすべきであると考えています。それにより、「アントレプレナー教育は山口大学」という評価が得られるような教育を行う、また雰囲気を有する「工房」を作り上げることが、本機構の役割であると考えています。